

今月の共催イベント

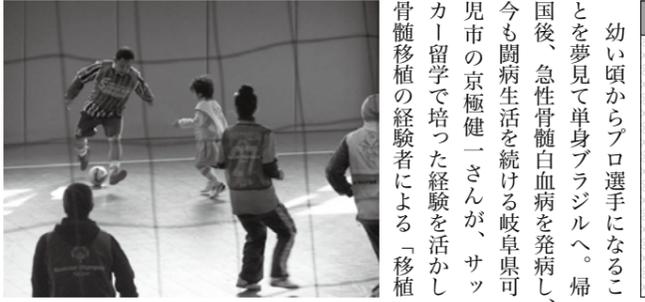
鹿児島県鹿児島市
末梢血研修会開催
元患者 飛び入りで講義も

末梢血幹細胞移植のことを多くの方に知ってもらうため、1月22日鹿児島県血液センターで行政、日赤、かごしま骨髄バンク推進連絡会議メンバーをはじめ、一般の方々の参加も得て、研修会を開催しました。財団の調整医師で当会の顧問でもある宇都宮眞先生が、映像を使って末梢血幹細胞移植の実際をわかりやすく解説してくださいました。医師の臨床でのお話は大変ためになりました。末梢血幹細胞移植のことを実感することができました。



各地のり 各地のたよりを 写真を添えて お寄せください。

岐阜 病に打ち勝て！ いつの日かW杯を！



幼い頃からプロ選手になることを夢見て単身ブラジルへ。帰国後、急性骨髄白血病を発病し、今も闘病生活を送る岐阜県可児市の京極健一さんが、サッカー留学で培った経験を活かして骨髄移植の経験者による「移植

者フットボールクラブ」を立ち上げました。闘病者に希望と目標を、そして移植者W杯開催を願ひ、国内での第一回大会が、2月12日に名古屋港区の大洋薬品オーシャンアリーナで開催されました。骨髄移植によって病を克服した元患者さんや家族の皆さん、ドナーさん、医療関係者ら多くが参加し、会場をホームアリーナとする名古屋オーシャンズの北原巨選手もプレーに加わり、巧みなパスに歓声が沸き立つフットサル大会となりました。会場内では啓発活動に合わせ、お楽しみ抽選会が行われたほか、京極さん自身も患者のひとりとして支援を受けた「佐藤きち子患者支援基金」への募金も呼びかけられました。

次回大会が秋に予定されているようですが、患者さんが元気を取り戻しフィールドに復帰出来る姿が闘病中の患者さんの励みとなる様に、また各種ドナーバンクへの理解を求める新たな啓発の第一歩がスタートしました。大会を終えた京極さんからコメントをいただきましたので、ご紹介いたします。

「マスコミにも多く取材いただき、テレビやラジオを通じて、今も闘病中の患者さんに、病と闘う勇気と克服する希望」を届けたいと思っています。今回、骨髄移植を受けた元患者さんが3名参加してくれました。今後開く大会に、移植を受けて元気になった仲間一人でも多く参加してもらいたいと思っています。」

「一人で力を携えれば、大きな力になること、それが社会の助けになること、また、経済状況の差からくる一喜一憂の感覚……等々、生徒さんのみならず、私たち大人も学び取ることが出来ます。教職員の方々のご指導にも心から感謝し、生徒さんの将来に幸あれ、と温かい気持ちで甲山中をあとにしました。甲山中の皆様、本当にありがとうございました。」

「また、恐れ多くも、人さまのお役に立ちたい」という想いが強く、何かしたいという気持ちに日々日に募り、そんな想いはいつしかボランティア活動にいきつきました。介護支援、ホスピスでのお手伝い、動物園での説明員等のボランティア活動に参加させていただく中で、いろいろな人と触れ合い、いろいろなことを経験してまいりました。

「へえーそういうことだったんだ」と、何度つぶやいたことか。見よう見まねで行っていた「所作草」の意味を、この歳で初めて知った。ドナー経験した時の様子も最後の章で書かれているので、「プチ体験記」といった趣もある。ご本人は「患者さんらが多くいらっしやる組織でもあり、『縁起でもない』と気を悪くされる

「何かにやらせたい」と遠慮なされるが、今更改めて聞けない、大切なことがたくさん書かれていた。ドナーになった思い、周囲の方々の反応も書かれ、骨髄バンク、骨髄移植について知っていたら、ひとつのきつかけにもなるだろう。図書館に置いて頂いたら、「落語の本だと思っただけ」なら、骨髄バンクについて知っちゃった」ってことになる。色々な形での啓発活動があるのだから、おもしろいと感じた夜だった。皆さんもぜひ一読を……。

会長の 走る！

空気は春の温かさを感じた2月21日、今年も愛知県岡崎市の甲山中学校を訪問してきました。甲山中では長年に渡り生徒が一丸となり、アルミ缶回収に取り組み、収益金をご寄付いただいています。今年、回収したアルミ缶は139115缶になったそうです。生徒数は756名です。なんと、一人当たりの平均は180缶余りにも及びます。そして、回収レイトは経済状況に左右され、世相も反映し

心 の 声

「自費出版で作成された患者さんの闘病記をよく頂く。私は患者でも患者家族でもないのだから、みなさんの壮絶な闘いを知ることが出来れば……と勉強させて頂く気持ちで読んでいます。今回届いた本はちよつと違つた。ドナーになった方が執筆された本だった。でも体験記ではないし自費出版でもなかった。『友引寄席』(幻冬舎ルネッサンス新書)は葬祭業界から落語業界へ転職された経験を生かし、落語の演目になぞらえて、葬儀の常識や非常識について読みやすく書かれていた。「へえーそういうことだったんだ」と、何度つぶやいたことか。見よう見まねで行っていた「所作草」の意味を、この歳で初めて知った。ドナー経験した時の様子も最後の章で書かれているので、「プチ体験記」といった趣もある。ご本人は「患者さんらが多くいらっしやる組織でもあり、『縁起でもない』と気を悪くされる

求む! ありがとうサクラ 便り

2009年早春の時期に全国各地に111本植樹された「骨髄移植1万例・さい帯血移植5千例達成記念」のありがとうサクラ。ふた夏が過ぎ、「そろそろ花をつけるものが出てくる」というアドバイスのもと、「記念植樹スタート地」だった沖繩県庁のサクラが咲くかも?と、野村副会長が沖繩に向かいましたが、もう若葉を広げている段階でした。植樹から2年近くが経過しましたが、まさに造血細胞移植と一緒に、移植後、生着はしたけれど、幹肌に見殻虫がついていたり、厳しい環境で成育不全

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

●非血縁者間末梢血幹細胞移植診療科・採取認定施設について
 3施設が新たに認定を受け、これまでに認定された施設は19施設となりました。なお、認定施設については、財団のホームページ「患者さんへ」の「移植認定病院」および「ドナー登録されている方へ」の「面談施設一覧」をご覧ください。
 また、現在ごく少数ではありますがPBST選択可能なコーディネーターが進行しています。

骨髄バンク NOW

●HLA再検査の一部実施漏れについて
 ドナーの取違えを防止するため、採取・移植前に実施している再検査がコンピュータープログラムの過誤により一部実施もれになったことが判明しました。速やかにその再検査を実施し、点検を行った結果、ドナーの方の間違いは無く患者さんに影響がなかったことを確認しました。なお、検査実施もれの再発を防ぐべくコンピュータープログラムの改修も即時に実施しまし

●日本造血細胞移植学会総会 & コーディネーターブラッシュアップ研修会
 3月9日(水)・10日(木)の2日にわたり、愛媛県松山市の愛媛県民文化会館(ひめぎんホール)で「第33回日本造血細胞移植学会総会」が開催されます。10日(木)には第二会場のサブホールで「Memorial & Survivor ship」の時の時、こんな想いがあった。そして今を生きる〜」をテーマに市民公開講座も開催され、こちらは一般の方も無料でご参加いただけます。詳細は学会のホームページをご覧ください <http://www.congre.co.jp/jshct2011/index.html>
 また、学会に併せて3月10日(木)・11日(金)の2日間、「第16回コーディネーターブラッシュアップ研修会」が開催されます。研修会では末梢血幹細胞移植に関する講義や、コーディネーションスタッフの活動報告、コーディネーター事例検討などを実施する予定です。

●LIVE FOR LIFEの病院訪問
 2月14日、LIVE FOR LIFE美奈子基金の副理事長、高杉敬二さんと特別顧問、工藤美枝子さん(本田美奈子さんのお母様)が国立成育医療センター(東京都世田谷区)を訪問しました。LIVE FOR LIFE美奈子基金は、白血病で亡くなった本田美奈子さんの遺志を継いで活動を続けています。今回は、患者さんに使って頂くため、本田美奈子さんの「オモイ」にしたバンダナやオルゴールなどを贈呈しました。バンダナは、本田美奈子さんが入院していた時に着用していたことから、LIVE FOR LIFEが患者さんを励ますために製作したもので、本田美奈子さんが好きだった四つ葉のクローバーと「アメイジング・グレイス」の歌詞がデザインされています。昨年2箇所の施設にバンダナを贈呈しており、今後も継続して行う予定です。

●1月の区別ドナー登録者数: 献血ルーム/978人、献血併行型集団登録会/1,698人、集団登録会/117人、その他/60人

●日本骨髄バンクの現状(平成22年1月末現在)

	12月	1月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,952	2,853	377,704	490,964
患者登録者数	256	234	2,937	32,125
骨髄移植例数	82	94	-	12,592
20歳未満ドナー登録者	-	131	14,152 ¹⁾	-
51歳以上ドナー	323 ²⁾	124 ³⁾	21,480 ⁴⁾	-

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。
 1) 17年3月～ 2) 51歳以上ドナーの延長数
 3) 51歳以上ドナーの新規登録数
 4) 17年9月～

だつたりと、GVHDとの闘いのうちに、一進一退を繰り返しながら成長しているようです。仕事やドナー登録会で近くに行つた時にはちよつと立ち寄り、通院の時には病院の敷地に移植されたサクラにも会いに行つたりと、皆さん何かと気にかけてくださっていて、本当に嬉しい限りです。時間はかかっても、いつの日か必ずつぼみをつけ、美しく開花してくれると信じています。各地で移植されたサクラの様子を報告していきたいと思えます。「こんなに大きくなりました」と、お写真やコメントを是非お寄せください。

患者会「しらたま」と共にスクスクと育つ帝京大学医学部附属病院(東京)のサクラ